

テーマ：『 育てよう子どもたちの自然を見つめる目、科学を追究する目 』

厚木市立

厚木第二小学校

Tel. 046-228-0690

担当者： 漆原 知子



ポップコーンの植え付け



大きく伸びたポップコーン



稲刈り前の落水作業



ハサミで稲刈り

■実践内容：

厚木第二小学校では、各学年で生活科や理科、総合的な学習の時間に栽培活動に取り組んでいます。ここでは、2年生と5年生の実践を紹介します。

2年生は、教室の窓際にある学校園で、子どもたちが親しみやすく、また育てやすい野菜を育てています。今年は、トウモロコシ(ポップコーン)・ナス・キュウリ・ミニトマト・ピーマン・スイカ・サツマイモ・綿です。世話を続けながら、気付いたことや自分の思いを「見つけたよカード」にまとめています。

5年生は、総合的な学習の時間で、バケツ稲栽培に取り組んでいます。社会科で学習した米作りをバケツの水田で再現します。夏休み中も交替で水の管理をしました。

■実践成果：

2年生は、植物の特徴や成長に対する驚きや喜びを実感することともに、理科的な視点で見つけたよカードを書くようになりました。また、いろいろな虫の存在に気付くこともできました。

5年生は、教科書で学んだ稲作を実際に体験することで、多くの手間や技術、生産者の思いを実感的理解することができました。作業をとおして水田の役割や生態系など環境に対する問題意識を持つきっかけができました。

■実践ポイント：

3つのポイントをあげます。第一は、子どもたちが毎日目にふれやすく、安全に世話ができる場所です。毎日主体的にかかわることで、成長が点から線で捉えることができます。第二は、子どもたちが親しみやすく育てやすいものを選ぶことです。場所によって育てやすさは異なりますし、連作障害もあるので、計画的な畑の利用が大切です。第三は、成長の過程が振り返りやすいよう、デジカメやビデオなど映像を残すことです。低学年では、ビデオを使うと文字を書くことが苦手な子への支援になります。